

令和 7 年度
事業報告(案)

社会福祉法人 白老宏友会
指定障がい福祉サービス 愛泉園
(生活介護事業)

第三十卷

(按) 告 辭 葉 季

葉季季先生 大鑒

敬啟者 茲因一併辭職 敬請 鑒察

此致 敬啟

1. 総 括

数年続いた新型コロナウイルスの感染防止強化期間が終了し2年目となった令和7年度は通常に近い形で行事企画も実施され1年を終えることができました。愛泉園の恵まれた自然環境を利用した屋外ウォーキング等の運動活動の他、カシス栽培を通じた地域の方との交流事業については天候にも恵まれ、来場者が300名と年々増加傾向にあり、カシスの売り上げも伸びています。また、カシスの普及を目的とした苗木合計100本の無償譲渡を町内企業2か所に行うことができました。

利用者行事においては、待ちかねたグループ外出にて利用者のニーズを参考に数種類の企画を実施しており、「国立博物館ウポポイ」の見学も行うことができました。

令和7年度の大きな出来事として、初夏の少雨から始まり、7月のカムチャッカ半島沖津波による避難、9月の局地的な豪雨による白老町内の道路冠水、12月の青森沖後発注意情報など改めて防災を見つめなおす機会になりました。愛泉園は津波や土砂災害、水害の被害想定地域ではありませんが、災害により孤立することが予想されることから、非常食や燃料などの備蓄の他、今後も災害にそなえた整備を行っていきたいと考えています。

愛泉園の市街地への建替え計画については、資金の積み込みも順調に進んでいますが、建築費の高騰などは続いているため資金不足の解消には至っておりません。法人内事業の再編も含め、今後総合的な判断を行いながら、将来に備えていきたいと考えております。

2. 各種活動報告

〈葉草加工作業・軽作業〉

「よもぎのお風呂」については、総数約6,100個、総額337,379円(前年比106.2%)の売り上げがありました。定期購入の個人売り上げや大口取引先の宿泊施設への納品が継続されております。

文様事業含む「軽作業」では新製品の開発を進め、ラインナップの刷新を進めました。国立アイヌ民族博物館(ウポポイ)での販売は、関西万博の影響も少なからずあり減収減益。「ななかまどイレンカ」と「ポロトミンタラ」への商品の供給や、高等養護学校などからの特注品の製作にも対応しました。利用者の活動と工賃財源の確保に取り組んだ結果、ななかまどイレンカ単体の売り上げは3,515,928円(前年比84%)、白老観光協会運営の「ポロトミンタラ」では804,040円(前年比103%)の売り上げとなり微増。町内の宿泊施設等2か所に依頼して設置しているカプセルトイ(ガチャガチャ)の売り上げが117,000円(前年比110%)を計上し、5,374,237円。その他、単発の受注生産を含んだ生産活動全体の売上額は総額8,887,565円を計上しました。約17%弱の減少が見られましたがイレンカも減益、観光協会の「ミンタラ」では道外でのイベント販売が順調であるとの担当者お話をいただき、3%程度の微増収となりました。



【文様事業：新製品の開発】



【カシスを使ったジャム製造】



【実を付け始めたカシス】

〈療育活動〉

本人との関係性の構築や障がい特性への理解を深めることを優先し、健康面、保清に配慮して、快適な日中生活を送るための支援を行いました。創作活動では、季節ごとの飾り付けや、毎週金曜日に行うアート活動を通し、楽しみながら本人の意欲を高めるよう努めました。敷地内のほか、雨天時・冬期間には園内をウォーキング、野菜や果物の収穫、室内でも運動ができるようにマシンを使用し個々の特性に応じた支援内容を提供して、活動的に過ごすための支援を行いました。状態が安定的でない利用者に対しては、心理的なサポートを心掛けて、家族やグループホームとの連携による情報の共有を図り助言や支援を行いました。また、季節に沿った行事や各種活動を行う中で、仲間達と喜びを共有してもらえるよう努めました。



【カラオケ】

【ウポポイ見学】

【誕生日会】

〈農耕作業〉

電気柵の効果もあり「シャインマスカット」「枝豆」、他の野菜など害獣被害も少なく沢山の实を付け利用者のおやつや、ご近所野菜市での販売につなげることができました。収穫された野菜や果樹は共生型事業所における「ご近所野菜市」、「ななかまど」、「みらいえジェラート工房ミナピエノ」で377,249円、売上げがありました。一部は給食の食材として、また、行事等でも使用することで、利用者に新鮮な野菜の提供を可能にし、さらに栽培から消費までを一貫して体験したことが、利用者の笑顔につながったことと思います。また、カシスの挿し木による作付面積を拡張し、近い将来愛泉園利用者の資産となるよう育てています。重度の利用者でも活動に参加できる農作業への研鑽を進めております。

(生産実績) 園内耕地 スティックブロッコリー、キュウリ、ゴーヤ、枝豆、じゃがいも、秋田フキ
ピーマン、サニーレタス、トマト、空心菜、プラム、シャインマスカット
カシス

〈給食作業〉

給食提供に係る補助業務を行うことで就労意識や本人の自己実現に向けた支援を行いました。仕事に関わることを継続することで本人の意識改革や自分が必要とされているという自尊心を大きく育てることに寄与できたものと思われる。

3. 作業工賃

活動内容や貢献度によって日額300円、350円、450円、550円の工賃及び賞与を支給し、25名の利用者に対して総額3,451,274円(1人平均年138,050円)を還元できました。

4. 職員研修

障害者虐待防止研修、権利擁護研修、ハラスメント研修など基本的な研修の実施の他、ズームを使用した各種オンライン研修や、現地参加型の研修に参加し、職員個々の専門性と支援の質向上を図りました。

また、防災研修、感染症予防実践研修なども実施しております。

5. 余暇活動支援

利用者の楽しみのために各種余暇活動の充足を目指し、実施しました。主な取り組みは、月例行事として本人の誕生日にはお菓子を用意し、皆でお祝いを行いました。年間行事では、新年会、節分、バレンタインデー、ひな祭り、ハロウィーンパーティなど季節的な催しの他に、秋と早春にはミニ運動会的な「アイセンピック」を実施。その他屋内外の行事や日中活動においては、製菓活動・ゲームの要素を取り入れた軽運動、近郊への日帰り外出、大画面による映画鑑賞会、カラオケなどを実施し、日常生活とは異なった各種体験の機会を提供することで、心身のリフレッシュ効果を狙いつつ、思い出に残るような行事を行い、余暇支援を充実させています。



【大町小町ベコ祭り】

【忘年会】

【新年会】

6. 自治会（ベストフレンズ）活動の支援

新年会や忘年会、誕生会などの司会進行などは利用者自治会が主体的に実施できるよう支援に勤めた。

7. 事故防止策および事故対応策

緊急時の連絡網として[LINe]での情報交換を日頃から活用し、緊急時に対応できるよう努めてきました。また、事故防止のためのヒヤリハット案件を毎月探し出し、職員へ周知しながら事故防止への意識を高めるとともに、他事業所へも運営会議を通じて周知してきました。

8. なんでも相談（苦情解決）支援

本年度においては、なんでも相談受け窓口に寄せられたものではありませんでしたが、ご家族より支援に対する要望や相談はあり都度話し合いを実施し利用者支援に生かしております。

9. 保健医療支援

健康診断を行い、利用者の健康管理、維持に係る支援を行なった。また、毎日のバイタルチェックや表情などの観察をして、異変があればグループホームや家庭へ連絡をして必要な対応を行い、事業所での様子などケース会議等で情報の共有化を図った。インフルエンザ予防接種の実施、感染防止強化による手指の消毒、加湿、換気、空気清浄などを重点的に実施しました。また、園内の手すりやドアノブの消毒、公用車内の消

毒を習慣化し、感染症予防を行っています。てんかん発作を有する利用者については、発作の記録表をもとに家族へ報告を行い、医療対応の参考となるように配慮を行っております。

10. 管理業務

予算の適正な執行と経費節減に心掛けました。障害支援区分の変更、例年並みの利用率の維持ができています。職員会議、支援会議、ケース会議等の会議の開催の他、事務部会・運営会議に参加。また、外部の会計事務所の監査を受けることで、会計の透明性を図りました。消防設備点検、浄化槽点検・修理を行い、安全への配慮、設備の維持を行いました。災害を想定した(地震、火災)避難訓練、不審者の侵入を想定した防犯訓練も行っています。パソコンの入れ替えや iPad の増設、大型テレビの入れ替えなど現状維持と環境構築を実施しています。



【大型テレビ設置】



【避難訓練／火災想定】



【避難訓練／地震想定】